三菱ＵＦＪリサーチ＆コンサルティング
2006 年 2 月 20 日

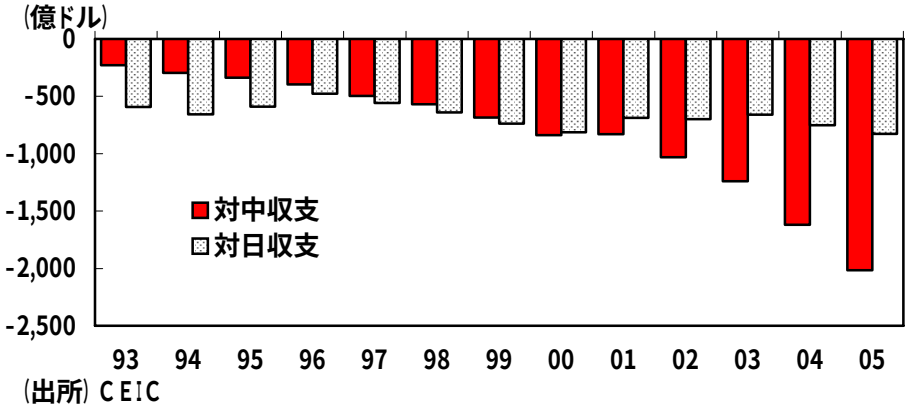
「世界の工場」と「世界の市場」
～米中間の貿易不均衡の行方～

Ｑ１．最近、米中間で貿易摩擦再燃が懸念されているのはなぜですか？

・ 米国の貿易統計によれば、2005 年の米国の対中貿易赤字額（＝中国の対米黒字額）が前年からさらに約 400 億ドル増えて、2 千億ドルを超えたためです[1]（図表１）。

・ その上、今年、米国は中間選挙の年に当ります。このため国内産業保護のために、「貿易赤字＝雇用機会の流出」といった論調が高まれば、その矛先は対米で大幅な黒字（米国にとっては赤字）を計上する中国に向かう懸念があります。

図表１．大幅に拡大する米国の対中貿易赤字



(出所) CEIC

Ｑ２．70 年代から 80 年代にかけて深刻化した日米貿易摩擦と状況は同じですか？

・ 日米間の貿易不均衡と今日の米中間の不均衡には 2 つ大きな相違点があります。

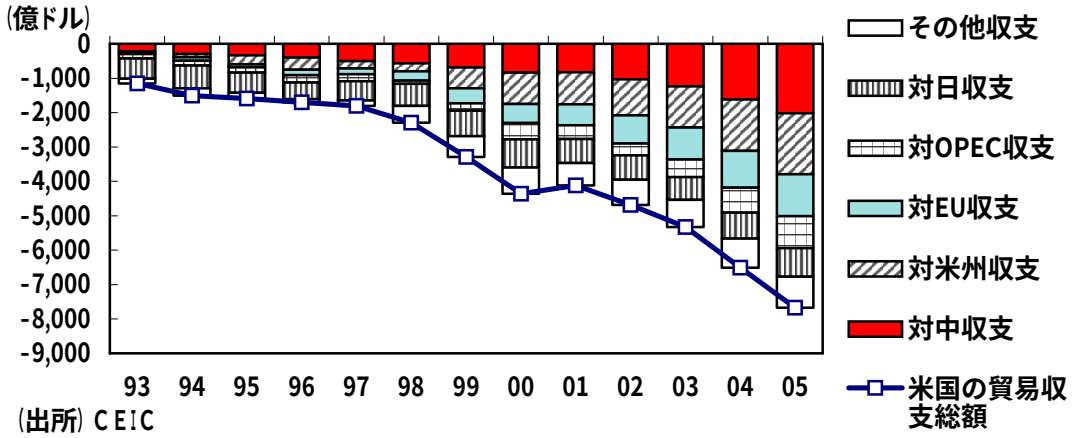
・ 第 1 点目は、対中貿易赤字が 2 千億ドルを超えた 05 年時点でも、米国の貿易赤字全体に占める割合は 26%にとどまっている点です。これに対して日米貿易摩擦が深刻化していた当時は、対日赤字の割合は年によっては 50%を上回っていました。それだけに日本の輸出自主規制が対日貿易赤字の削減を通じて米国の貿易収支そのものを改善する効果も大きかったと言えます。

・ しかし、今日、米国は中国以外に米州地域、ＥＵ、日本などに対しても大幅な赤字を計上しています（次頁図表２）。これは米国がいわば「世界の市場」として世界

[1] 中国の貿易統計では中国の 05 年の対米黒字額は 1 千億ドル余。米中の統計の差異は香港経由の対米輸出の取扱いなど統計の計上の違いによる。

中から製品を購入しているからです。こうした状況下では、たとえ中国が輸出自主規制を強化したとしても、米国の貿易収支を改善する効果は限定的でしょう。

図表２．「世界の市場」米国は主要貿易相手国・地域に対して大幅な貿易赤字を計上

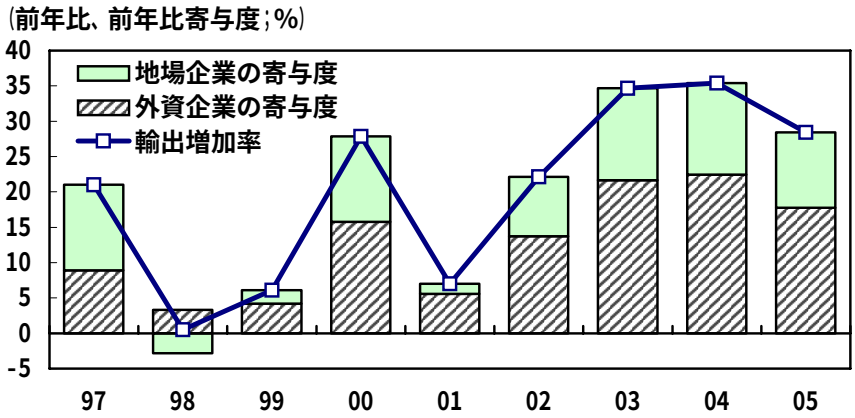


(出所) CEIC

・ 第２点目は、中国の場合、輸出を拡大して貿易黒字を稼ぎ出しているのは主に外資系企業であるという点です（図表３）。

・ 低コストに魅かれて米国を始めとする世界中の企業が中国に進出して工場を建設、中国は今や「世界の工場」として世界各地に製品を供給する役割を担っています。そしてこのことが結果的に中国の貿易黒字拡大につながっているのです。輸出自主規制などの保護主義的な措置は、貿易不均衡の緩和にそれなりの効果はあるかもしれませんが、結局のところ中国に進出している米国などの外資系企業の利益を損なう可能性もあり、両刃の剣と言えましょう。

図表 3．中国の輸出拡大の担い手は外資系企業



(出所) CEIC

Ｑ３．米中間の貿易摩擦が深刻化するのを防ぐ手立てはありますか？

・ 米国経済は今年も堅調に推移するとみられます。こうした状況下では、今日、いわば世界経済システムの中に組み込まれた感のある「世界の工場」と「世界の市場」の間の貿易不均衡が大きく改善する可能性は小さいと思われます。

・ 両国間の貿易不均衡が是正されることがあるとすれば、ひとつは中国が「米国の工場」で生産している製品の購入を大幅に拡大することでしょう。昨年も中国の航空機のまとめ買いが話題となりましたが、今年はこれに加えて医薬品などの購入も拡大するかもしれません。しかし、実際のところ 2 千億ドルの不均衡を目立って改善させるほどの目玉があるわけではありません。

・ もうひとつの可能性は米国に取って代わるとはいかないまでも、これを補完するような市場が見つかることでしょう。日本や欧州の景気が持ち直しており、ある程度、米国市場を補完する市場となることが期待されます。しかし、米中不均衡解消の本当の切り札は、中国政府が今年から始まる第 11 次 5 カ年計画で推進しようとしている中国自身の内需拡大、すなわち、中国の「市場」としての役割拡大にあるのかもしれません。

お問合せ先　調査部　野田麻里子
E-mail：mariko.noda@murc.jp

※本レポートに掲載された意見・予測等は資料作成時点の判断であり、今後予告なしに変更されることがあります。